

Analisis Pemakaian Verba *Renshuu suru*, *Kunren suru*, *Jisshuu suru*, dan *Enshuu suru* sebagai Sinonim dalam Kalimat Bahasa Jepang.

Irma Marcela SK
1304969

ABSTRAK

Jumlah verba bersinonim dalam kosakata bahasa Jepang sangat banyak. Oleh karena itu, agar dapat mengaplikasikan Bahasa Jepang dengan sangat baik diperlukan penguasaan dalam memahami persamaan dan perbedaan verba bersinonim tersebut dengan baik. Namun, dalam buku pelajaran Bahasa Jepang, dan kamus bahasa Jepang penjelasan mengenai persamaan dan perbedaan dari verba bersinonim sangat minim. Begitupula dengan verba bersinonim *renshuu suru*, *jisshuu suru*, *kunren suru* dan *enshoo suru*. Keempat verba tersebut jika diterjemahkan kedalam bahasa Indonesia memiliki arti yang sama yaitu 'berlatih'. Namun, bagaimana persamaan dan perbedaan, dan juga kemungkinan saling menggantikan dari keempat verba ini belum dapat ditemukan. Berdasarkan hal itu penelitian dilakukan untuk mengetahui, persamaan, perbedaan, serta mengetahui apakah keempat verba itu dapat saling menggantikan atau tidak dalam sebuah kalimat yang sama. Metode yang digunakan dalam penelitian ini adalah dengan metode analisis deskriptif yang menganalisis makna keempat verba yang terdapat dalam *jitsurei* berbagai sumber. Dalam penelitian yang dapat disimpulkan bahwa, persamaan makna dari keempat verba ini adalah melakukan sesuatu agar semakin mahir, atau untuk mempersiapkan sesuatu, sedangkan perbedaannya yaitu terletak pada subjek, objek, dan nuansa yang terkandung didalamnya. Keempat verba ini dapat menggantikan dalam konteks kalimat tertentu.

Kata kunci : *renshuu suru*, *jisshuu suru*, *kunren suru*, *enshoo suru*, sinonim.

**Analysis of Usage Verb *Renshuu suru*, *Jisshuu suru*, *Kunren suru*, and
Enshuu suru as Synonym in Japanese Sentences.**

Irma Marcela SK

1304969

ABSTRACT

Japanese has many synonymous verb. That's thing make a reason, learner must to understand how to using of synonyms verb, about the similiarities and difference about synonym verbs. Neither the verb *renshuu suru*, *jisshuu suru*, *kunren suru*, and *enshuu suru*. If translated in Bahasa, that's verb has meaning 'latihan', 'berlatih'. This research aim to find about the meaning, the similiarities, the differences between verbs, and to find probabilities to replace each other. Method that using at this research is Analys Descriptive Method, to analysis the meaning about the verb that contain invarious sources. The Research conclusion is, the similiarities between the synonym verbs are to do something to increasing ability, and to prepare something before do. The differences of them is about, for what the activity is doing, where the activity is done, and who does it. Between about the verb can replace each other, in particular sentences.

Keyword : *renshuu suru*, *jisshuu suru*, *kunren suru*, *enshuu suru*, synonym.

Irma Marcela SK, 2018

*ANALISIS PEMAKAIAN VERBA RENSHUU SURU, KUNREN SURU, JISSHUU SURU, DAN ENSHUU SURU
SEBAGAI SINONIM DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG*

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

日本語の文における日本語類義語「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の使用分析

イルマ・マルセラ

1304969

要旨

日本語の中には類義語がたくさんある。そのため、日本語を適切に使用できるように日本語学習者は各類義語について深い理解が必要であると考えられている。「練習する」、「実習する」、「訓練する」、「演習する」、四つ類義語もそうだと考えている。この四つの単語はインドネシア語に翻訳すると「berlatih」「latihan」という意味を表している。4つの単語の違いが分からない初級レベルの日本語学習者は理解不十分のまま使用すると、誤用を起こすだろう。本研究では、「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の4つの日本語類義語のそれぞれの意味や類似点、相違点、さらに置き換えの可能性について考察する。デスクリプト法を用い、様々な参考文献からデータを収集し、そのデータを分析して考察する。本研究から、「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の類似点として技能高めるように、準備させることがあった。一方、相違点として「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」と違って、何のためにか、どこで行われているか、誰がしているニュアンスということが分かる。「練習する」場合には、自分自身で能力をどのように高めるかについて。「訓練する」場合には、持っている技能をさらに高めるように、実地に教えきたえる。「実習する」現場で正しいことをする能力を高める方法についてです。そして、「演習する」は実際の状態で能力を上げること以上のものですが、これはシミュレーションを行うための詳細についてです。そして最後に、この4つの単語はやや限られている分で置き換えもなどである。

キーワード：練習する、実習する、訓練する、演習する、類義語

Irma Marcela SK, 2018

ANALISIS PEMAKAIAN VERBA RENSHUU SURU, KUNREN SURU, JISSHUU SURU, DAN ENSHUU SURU SEBAGAI SINONIM DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

A. はじめに

類義語とは意味が同じか、またはよく似ている単語のことである。日本語には類義語がたくさんある。そのため、日本語を適切に使用できるように日本語学習者は各類義語について深い理解する必要があると考えられている。つまり、ここでは意味が同じものも類義語にふくめて考える。たとえば、動詞「練習する」、「実習する」、「訓練する」、「演習する」、日本語からインドネシア語辞典によると、同じ意味が持っていた。インドネシア語で翻訳したら、「Latihan」「Berlatih」という意味である。しかし、日本語の中でこの動詞は間違い意味がある。国語中辞典の中に、「練習」とは学問・技芸・運動などをくり返して習うことという意味である。それから、同じ参考書によって、「実習」とは講義などに対して、実地について学習することという意味である。では、「訓練」とは物事を教え、一定の目標、または基準に到達するように練習させることという意味である。また、「演習」は慣れるための実際の練習という意味である。実際に、日本語の授業のテキストや、日本語インドネシア語辞典でも、これらの類義語の意味に関する説明はあまり見られない。そのため、類義語使用の研究が必要である。そのために、筆者が「日本語の文における日本語類義語「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の使用分析」というタイトルを研究したのである。

B. 研究の問題。

本論文では、次の4点について分析試みた。

1. 「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の類似点何であるか。
2. 「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の相違点何であるか。
3. 「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の置き換えの可能性であるか。

C. 研究の目的

1. 「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の類似点何を知るためである。
2. 「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の相違点何を知るためである。
3. 「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の置き換えの可能性で
きる知るためである。

D. 基礎的な理論

1. 類義語

Kimura (1990 : 441) は、「類義語とは意味が同じであるが、形が
違うものである」と述べている。

2. 動詞

Sudjianto (2004:149) によると、動詞とは日本語の品詞の一つで
ある。形容詞と形容動詞のように、自立語で用言を含む、活用する用言、
人や物の動作、状態、存在を表わす。

3. 「練習する」の意味

Umesao(1987)によると、「練習する」は2つ意味がもっています。一
番、学問・技能・芸道などが上達するように繰り返し習うこと。二番は、
正式に行う前意ためしにすること。

4. 「実習する」の意味

Shibata (2002: 262)、によると「実習する」とは、講義や資料だけ
の学習でなく、実地に、また実物で学習すること。

5. 「訓練する」の意味

Shibata (2002: 335)によると、「訓練する」とは、技能などをより
高めるため、実地に教えること。

6. 「演習する」の意味

Irma Marcela SK, 2018

*ANALISIS PEMAKAIAN VERBA RENSHUU SURU, KUNREN SURU, JISSHUU SURU, DAN ENSHUU SURU
SEBAGAI SINONIM DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG*

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

Shibata (2002: 262)によると、「演習する」とは、実際の場面を想定して練習を行うこと。

E. 研究の分析

1. 「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」を使っている文を集めている。
2. 「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の類似点を分析する。
3. 「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の相違点を分析する。
4. 主体、対象の種類、対象の閉め方「練習する」「実習する」「訓練する」と「演習する」は互いに入れ換えられるかどうかを分析する。

F. 結果

1. 「練習する」の文法的意味によると3つである。
 - a. 技能・運動・学習など繰り返して習うこと。
 - b. 本番の前に、繰り返しこと備えること。
 - c. 新しいことができるように、自分で一生懸命すること。
2. 「実習する」の文法目的によると一つの意味だけである、それは講義や、現場で実地にすることである。
3. 「訓練する」の文法的によると2つの意味がある。
 - a. 技能をより高めるように、時間が決定されている。
 - b. 誰かの能力の向上のために、実地に教えきたえる。
4. 「演習する」の文法的によると2つである。
 - a. 実際の場面を想定して、万一のために準備すること。
 - b. もっと詳細に適用すること
5. 「練習する」と「訓練する」という動詞類似点は4つある。
 - a. 行為技能を高めるようにニュアンスがあった。
 - b. 繰り返すことや、計画的ニュアンスがあった。
 - c. アイデアを行動に移す。
 - d. 達成べき目的のための備えという形として。

Irma Marcela SK, 2018

ANALISIS PEMAKAIAN VERBA RENSHUU SURU, KUNREN SURU, JISSHUU SURU, DAN ENSHUU SURU SEBAGAI SINONIM DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG

Universitas Pendidikan Indonesia | repository.upi.edu | perpustakaan.upi.edu

6. 「実習する」と「演習する」という動詞類似点は4つある。
 - a. 技能を高めるように、現場で実地にする。
 - b. 講義で習うだけ、現場でやってみる。
 - c. 学習に関連した行為を強調。
 - d. 習ったことを実践します。
7. 「演習する」「訓練する」「練習する」という動詞類似点は3つある。
 - a. 技能をより高めるように、時間が決定されている。
 - b. 特に軍事など、物理的ニュアンスを持っている。
 - c. 万一のこのために、備えること。
8. 「練習する」と「訓練する」という動詞相違点は5つある。
 - a. 「練習する」というのはなにかを初めからうまくできるまでがんばりますというニュアンスがある。しかし、「訓練する」はそれ以前に持っているの専門知識を活用し、練習します。
 - b. 「練習する」は時間的によくと、本番が間近で時間の制限がある。それから、「訓練する」というのは時間が制限されない、緊急の場合、それをするニュアンスがある。
 - c. 「練習する」は自分だけでもできるニュアンスがある。「訓練する」は専門家や、インストラクターなどが必要とされる ニュアンスがある。
 - d. 「練習する」はもっと自発的なニュアンスがある、「訓練する」はそのニュアンスを持っていない。
 - e. 「練習する」は人間だけに関して使用するのに対して、「訓練する」は動物にも使用することができる。
9. 「実習する」と「演習する」という動詞相違点は3つある。
 - a. 「実習する」は主語によると、軍事に関して使用することができない。公共の事柄に対してを使用することができます。「訓練する」は軍事ことや公共の事柄に使用することができます。

- b. 「実習する」と「演習する」は学問的あるいは講義での内容について用意られる場合、「実習する」はもっと現場で習うニュアンスで、「演習する」はより深く習うというニュアンスがある。
 - c. 「実習する」と「演習する」は現場で実地にすることの意味が同じだが、「実習する」は学習について使用ができる、「演習する」は軍事だけに使用できる。
10. 「演習する」「練習する」と「訓練する」という動詞相違点は3つある。
- a. 「訓練する」「練習する」時間的な観点でみると、「演習する」は緊急な場合のニュアンスがある。
 - b. 「演習する」は「Simulation」という同じ意味を持っている。
 - c. 学習分野によると、「演習する」は「練習する」と「訓練する」の複合をなしている。
 - d. 「演習する」はスポーツに関連した文においては使用されない。
11. 「練習する」「実習する」「訓練する」「演習する」の間には、やや限られている分で置き換えも可能などである。それが、主語か、述語か、客語などに依存している。

参考文献

- Dahidi, Ahmad dan Sudjianto.2004. *Pengantar Linguistik Bahasa Jepang*. Bandung. Kesaint Blanc.
- Sutedi, Dedi. 2011. *Dasar-Dasar Linguistik Bahasa Jepang*. Bandung: Humaniora